

特集  
紙のよさ

MESSAGE

# ペーパーマジック ORIGAMI

若い頃は、実はあまり折り紙に興味はありませんでした。大学を出た後はヨーロッパへ渡り、何年かアルバイトをしながら旅をしていました。帰国後は写真学校へ行って、あるカメラマンに師事しました。その人が日本折紙協会の事務局長も務めていたことから、自然と折り紙に触れる機会が増えて、創作もするようになったんです。折り紙の創作をする人が当時は殆どおらず、自分の作品が誉められると嬉しくて興味も増し、熱心に取り組むようになっていきました。その後、日本折紙協会で雑誌の編集と折り図（折り方を説明した図面）を描く仕事を始めたのが、今に至るきっかけです。

折り紙は正方形が最も合理的で、無限の可能性があります。現在では、不切正方一枚折り（切り込み無し）の正方形1枚の紙で折ること）に拘って作品を作るマニアが多くなっていますが、複数枚を使う「複合折り紙」もあります。これは、例えば1枚で折る複雑な造形の動物を、上半身と下半身に分けた2枚で折れるようにすると、同じ完成形でもより易しく折れるという利点を生みます。また、表裏で色

が違う紙を使って動物の模様を折り出したりする「インサイドアウト」という技法もあります。

折り紙には、市販の折り紙用紙が一番向いていますが、特別な紙を使う場合もあります。和紙には風合いがあり、ほかしの入った和紙などは花の表現に向いています。ただ、和紙は折っても戻ってしまうので、飾る場合には形を保つために糊付けが必要です。

大きい作品を作るには、その何倍もの大きさの紙が必要です。たまに、実物大の動物を作るような依頼も受けますが、その際には3~7m四方の紙が必要になります。そんな紙は無いので、厚手の全紙を太い透明テープで貼り合わせて正方形を作り、水で濡らしながら折ります。このような紙は裏返すだけで大変なので、複数の人間で慎重に折り進めなければなりません。

一番大変だったのは、30年前にTVの収録でデンマークへ行った時だったかもしれません。この時は、製紙会社に3mを超える幅のロール紙を提供してもらって、飛行機で運びました。現地で奮闘して約7m四方の用紙を作り、なんと

か恐竜を完成させることができました。完成後のインタビューでは、「折り紙は格闘技です」とコメントしてしまいました。

人に見せたり展示したりする作品は、きちんと折って形が崩れない加工もするので、制作にとっても時間が掛かり、それを壊れないように丁寧に梱包して運びます。ですから、そのような作品には自分では値段を付けられませんし、時間給を考えると「30万円」とか言ったらもう驚かされてしまうので、一般の人にはまず買ってくれません。折り紙は、その手軽さゆえに、お金のかからないものだと思うがちです。

日本の折り紙の歴史は古いですが、世界で最も古いかどうかは文献が少ないので分かりません。遊びの折り紙は「遊戯折り紙」と言って、江戸時代以前から話に出てきて浮世絵にも描かれています。だから私は「日本が最初かどうかは分からないけど、折り紙という技法を育んできたのは日本だよ」と言っています。折り紙を「ジャパニーズアート」と呼ぶ国もあるようです。世界中で「ORIGAMI」という言葉が一般的に使われるようになったのは、アメリカの折り紙普及活動家リリアン・オッペンハイマーさんが、60

年以上前に日本語の「折り紙」を選んでくれたおかげです。だから、これからも日本から折り紙を発信していく必要があると思います。

昨今、海外にも折り紙の本は沢山ありますが、30年前、イギリスの書店で探した時は数冊しかありませんでした。「手用品店に置いてあるよ」と教えられて訪ねると、ロバート・ハービンというマジシャンが書いた『ペーパーマジック』という有名な本を見つけました。四角い紙からいろいろなものができるのは、まさにマジックだったんですね。

近年、書類や書籍がデジタルに置き換わっていますが、折り紙はやはり紙で実際に折るものでしょう。映像の世界だけでは物足りないですね。SNSでは創作作品が盛んに発表されていますが、皆さんも最後は実物を見たいわけです。紙であればずっと残りますから。それが「ギャラリーおりがみはうす」の存在意義だと思っています。

折り紙の魅力は、人と人のつながりを生み、コミュニケーションを取るためのツールとしてすごく役に立つことでしょう。折り紙を悪く言う人はまずいないですからね。



山口 真  
YAMAGUCHI Makoto

## プロフィール

1944年、東京生まれ。日本折紙協会事務局員を経て折り紙作家として活躍中。1989年、折り紙専門のギャラリー「おりがみはうす」を開設。ここを拠点に若手作家の育成、海外の折り紙団体や作家との精力的な交流を行っている。日本折紙協会事務局員。OrigamiUSA 永久会員。British Origami Society 会員。韓国折紙協会名誉会員。日本折紙協会機関誌「折紙探偵団マガジン」編集長。著書は「Origami Aquarium 水生生物の折り紙」(ナツメ社)、「飾りたい! 贈りたい! すてきな花の折り紙」(PHP研究所)、「たのしい折り紙全集」(主婦と生活社)、「折り紙ドラゴンズプレミアム」(ソシム)、「新世代 究極のおりがみ」(西東社)、「1年中楽しめる花の色紙折り紙」(日本ヴォーグ社) など150冊に及ぶ。

龍神3.5 (創作・制作/神谷哲史)